

評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所名	グループホーム みかん畑		
所在地	周防大島町大字西方835-1		
電話番号	0820-78-5111	事業所番号	3597100027
法人名	有限会社瀬戸内荘やまもと		

訪問調査日	平成 20 年 5 月 16 日	評価確定日	平成 20 年 9 月 17 日
評価機関の 名称及び所在地	特定非営利活動法人やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク 山口県山口市宮野上163-1-101		

【情報提供票より】

(1) 組織概要

開設年月日	平成 18 年 6 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員計	9 人
職員数	11 人	常勤 7 人 非常勤 4 人 (常勤換算 8.5 人)	

(2) 建物概要

建物構造	木造パネルプレハブ工法 造り		
	2 階建ての	~	1 階部分

(3) 利用料等 (介護保険自己負担分を除く)

家賃	月額 39,000 円	敷金	無	円
保証金	無	円	償却の有無	無
食費	朝食	300 円	昼食	400 円
	夕食	500 円	おやつ	100 円
その他の費用	月額	13,000 円		
	内訳	水道、光熱費、共益費		

(4) 利用者の概要 (5月16日現在)

利用者数	9 名		男性	名	女性	9 名
	要介護1	1	要介護4	2		
	要介護2	0	要介護5	2		
	要介護3	4	要支援2	0		
年齢	平均 88 歳	最低 73 歳	最高	97 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療 機関名	医科 川口医院、ひらい医院、光輝病院、おげんきクリニック 歯科
-------------	------------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

(優れている点)

利用者主体を基本に、それぞれが自由に楽しく過ごせる支援をしています。利用者一人ひとりの生活時間に対応できるような勤務体制となっており、日中自由に過ごし、夜は8時まで入浴可能です。日勤、夜勤の勤務終了時に利用者の様子をメールで職員全員に伝えています。職員はどのように介護し生活しているか、自分自身に向き合うために自己覚シートに書きこみ、利用者の気持ちになつての支援をめざしています。研修計画を立て、積極的に研修を取り入れ、同業者との交流も行ない、よりよい介護を目指しています。

(特徴的な取組等)

日々利用者とお互いの言葉や思いを記録し、担当スタッフが1年に一度利用者との関わりを示す「言葉集」を作成しています。「言葉集」は個々のスタッフ独自の個性あふれる作品となっており、その作品から支援のあり方や利用者を見つめる視線について話し合っています。遠方に住んでいる家族へは携帯メールで写真を送ったり、連絡をとったりしています。利用者のかかりつけ医受診の支援や、入居以前に住んでいた地域の行事に参加する支援をしています。

【重点項目への取組状況】

(前回の評価結果に対するその後の取組状況)

評価結果をミーティングでスタッフに伝え、指摘された点について一つひとつ検討しています。薬の保管場所について指摘があり、変えてみたが、もとのほうが便利ということで、もとの場所になっています。

(今回の自己評価の取組状況)

全職員一人ひとりが3,4ヶ月かけて、夜勤の時間に評価項目ガイド集を参考にして自己評価を記入し、管理者がまとめ、ミーティングにおいて皆で確認しています。

(運営推進会議の取組状況)

2ヶ月に1回、利用者、家族、自治会長、民生委員、消防署、社会福祉協議会、包括支援センター、他のグループホームの管理者、社会福祉士、職員の参加で行なわれています。利用者の状況、運営面の説明、評価についての報告等をして、ホームへの意見をもらいながら、改善に役立てる努力をしています。

(家族との連携状況)

1ヶ月に一度、写真入りで4,5ページの「みかん畑通信」を送付しています。利用者の会話を載せ、生き生きとした様子が家族へ伝えられています。管理者は個々の家族へ利用者の様子を書いて送付しています。5家族と携帯電話のメール機能を使って、リアルタイムの写真を送ったり、連絡を取り合ったりしています。電話での連絡も行なっています。

(地域との連携状況)

自治会に加入し、地域清掃、お祭りに参加しています。グループホームで行なう梅雨の運動会と秋の文化祭に地域の人に呼びかけ、交流の場となっています。利用者が生活してきた地域の行事に参加する支援を行ない、利用者のなじみの関係を大事にしています。

評価結果

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>理念に基づく運営 1. 理念の共有</p>			
1 (1)	<p>地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。</p>	<p>理念の中に「家族、友人、地域の交流も大切にしたい入居される方の生活づくり」を掲げ、利用者が生活してきた地域の人々とのつながり、交流を支援している。運営推進会議、地域のケア会議、行事参加など地域とのつながりを積極的に行なっている。</p>	
2 (2)	<p>理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	<p>管理者、職員は自分自身を見つめ直す観点として「自己覚知のためのシート」に取り組み、ミーティングや日々の生活で理念を共有し実践している。</p>	
<p>2. 地域との支えあい</p>			
3 (7)	<p>地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	<p>自治会に加入し、地域清掃やお祭りに参加している。グループホームで行なう梅雨の運動会と秋の文化祭に地域の人に呼びかけ、交流の場となっている。利用者が生活してきた地域の行事に参加支援を行ない、利用者のなじみの関係を大事にしている。</p>	
<p>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</p>			
4 (9)	<p>評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>	<p>3, 4ヶ月かけて全職員が個々で評価項目ガイド集を参考に自己評価を記入し、管理者がまとめミーティングにおいて皆で確認をしている。昨年の外部評価で指摘のあったところは話し合い、グループホームとしてどのようにすべきか確認、点検をしている。</p>	
5 (10)	<p>運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かしている。</p>	<p>2ヶ月に1回、利用者、家族、自治会長、民生委員、消防署、社会福祉協議会、包括支援センター、他のグループホームの管理者、社会福祉士、職員の参加で行なわれている。利用者の状況、運営面、評価などの報告をしている。</p>	
6 (11)	<p>市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>	<p>「東和ケア会議」が月2回午後1時から5時まで行なわれ、管理者が参加している。市町担当者や地域事業所との交流、情報交換、評価についての話などをしてホームの理解につなげている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践する為の体制			
7 (16)	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	1ヶ月に一度写真入りで4,5ページの「みかん畑通信」を送付し、管理者が利用者の様子を書いて同封している。5家族へは携帯電話のメール機能を使ってリアルタイムの写真を送ったり、連絡をとり合ったりしている。電話での連絡も行なっている。	
8 (18)	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させているとともに、相談や苦情を受け付ける窓口及び職員、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。	第三者委員、外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。家族の意見や希望を聞くように話しかけているが、家族が本音で意見、要望を出せるまでにはなっていない。	・相談機会の設定
9 (20)	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう夜間を含め必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	これまでの生活歴を大事にして、個々の利用者の生活時間に対応できるような勤務体制となっている。日中の利用者の日常生活を大事にし、本人の希望を取り入れながら、夜間入浴も出来る勤務調整を行なっている。	
10 (21)	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、変わる場合は利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	開設以来、職員3名の退職があったが、利用者とのお別れ会を行ない、ダメージのないようフォローを行っている。就職時には利用者に紹介し、挨拶を行なっている。	
5. 人材の育成と支援			
11 (22)	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	管理者は研修計画をたて、職員が外部研修を受けることを積極的に行なっている。理想としている静岡のグループホームと職員の交換研修を行なった。内部研修では、職員が当ホームに1日体験入所する事なども行なっている。	
12 (24)	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	近隣に新しく出来たグループホームへ全スタッフが日にちをずらして見学し、意見交換などを行なっている。運営推進会議に他のグループホームの管理者に参加してもらい、交流をとおしてスタッフが様々なことに気付き、サービスの質の向上となることを目指している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>・安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</p>			
13 (31)	<p>馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。</p>	<p>入居希望者の家へ行き、本人、家族と時間をかけて話し合いをしている。入居前に体験利用や体験入居を行ない職員や他の利用者、場の雰囲気に馴染めるようにし、本人が納得して入居できるよう、本人の気持ちを大事にしている。</p>	
<p>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</p>			
14 (32)	<p>本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。</p>	<p>鰯や鰯など魚の料理の方法や生け花など利用者から教えてもらい、日々の会話や生活の中で気付かされることもあり、学んだり支えあう関係を築いている。</p>	
<p>・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握</p>			
15 (38)	<p>思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。</p>	<p>日常の会話の中で利用者の思いを知るように努めている。利用者の何気ない言葉を書きとめている。会話が困難な場合は動きや表情で思いを知るように努めている。常に利用者の立場になって、ホームの生活や職員のことなどがどのように見えているのか考えながら、関わるようにしている。</p>	
<p>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</p>			
16 (41)	<p>チームで作る利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。</p>	<p>介護計画は担当のスタッフが作成している。計画作成担当者や職員がミーティングで意見を出し合い、また家族からの意見、利用者の様子や言葉から介護計画を作成している。歌が好きな利用者には、地域のカラオケ教室へつれて行くなど本人本位の介護計画が作成されている。</p>	
17 (42)	<p>現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行なうとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。</p>	<p>利用者の身体的、精神的な状況に応じて介護計画を変更している。特に入院などで様子が変化した場合は現状に即した計画を作成している。</p>	
<p>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</p>			
18 (44)	<p>事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。</p>	<p>遠方に住んでいる家族が多く、かかりつけ医への受診支援や入院した場合の付き添いを数日したりしている。往診にこられた精神科の先生に入居待ちの方が健康相談を受けたこともある。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
19 (49)	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	利用者の以前からのかかりつけ医を大切に、受診支援をしている。管理者は家族へ受診状況を電話やメールで伝えている。協力医との連携もと、利用者の状況に応じて対応している。	
20 (53)	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	看取りをするつもりであるが医療が必要になった時、看護師不足で訪問看護が受けられない現実がある。重度化した場合の方針を家族と話し合いを持ち、ホームで出来ること出来ないことを考えて担当医と相談しながらすすめている。	
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重			
21 (56)	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。	スタッフマニュアルに言葉のかけ方について記載し、毎日の生活の中で言葉かけに気を付けている。誇りやプライバシーを損ねるような対応は見受けられなかった。ホーム便りにも個人情報に配慮してAさん、Bさんと書かれてある。	
22 (59)	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	一人ひとりのペースを大切にしている。朝食は6時から10時と個々に対応している。その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
23 (61)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	朝食に利用者の好みに合わせてパン、ごはんの対応がされている。食堂だけで食事をするのではなく、時にはリビングや個室での食事支援を行ない、食事が楽しみなものになるよう対応がされている。調理の下ごしらえや、片付けを利用者と一緒に行なうこともある。	
24 (64)	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴出来る様に勤務調整し、夜間8時近くまで入浴出来る。1日平均4,5人の入浴で、要介護5の利用者は職員2名で対応している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
25 (66)	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場面づくり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	編物、料理、絵画、読書、生け花、庭木の手入れ、畑仕事など一人ひとりの好きなことや趣味、生活歴などを考えた生活支援を行なっている。カラオケが好きな人をカラオケ教室へ車でつれていっている。	
26 (68)	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	近くの散歩は日常的に行なっている。遠くへは皆で食事に行ったり、弘法市へ行ったりしている。誕生日に利用者の昔からの親しい友人の家へスタッフと一緒に訪問し、世間話をして帰り、ホームでも誕生日の祝いをしている。	
(4) 安心と安全を支える支援			
27 (74)	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が、「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び言葉や薬による拘束(スピーチロックやドラッグロック)を正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。	ミーティングで抑制や拘束について話し合いをしている。いろいろな事例で拘束にあたるかどうか話し合い、理解を深めている。	
28 (75)	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	日中、玄関に鍵はかけていない。居室も鍵をかけていない。鍵をかけないケアについて皆で話し合い共通理解となっている。	
29 (78)	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	利用者のそれぞれの状態から、どのようにすれば事故を防ぐことができるか、本人にとって一番よい方法を皆で話し合いながら取り組んでいる。	
30 (79)	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	急変時の訓練を1年に一度行なっているが、全ての職員が応急手当や初期対応ができるとはいえない。	・定期的な訓練
31 (81)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	グループホームが海岸に建っているため、台風が来る時は台風情報を見て、母体の民宿へ避難をしている。民宿は近隣の避難場所にもなっている。食料の確保もしてある。火災には消防団の協力が得られようになっている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
32 (84)	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めているとともに、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。	個別の薬剤シートを作成しており、職員は薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。服薬の支援を行ない、症状の変化、薬の内容が変わった時は、利用者の様子の把握に努め、医師との連携もとれている。	
33 (86)	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力量に応じた支援をしているとともに、歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援している。	個人個人の長年の歯磨きの習慣で朝だけ、夜だけの場合もあるが、なるべく毎食後歯磨きをするよう支援している。	
34 (87)	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事量、水分量を毎日チェック表に記入して、一人ひとりの把握がされている。利用者の好きな飲み物や食べ物にも配慮し、献立のメニューに取りこむようにしている。	
35 (88)	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。	それぞれの感染症に対してのマニュアルが作成されており、発生時の保健所への連絡も適切におこなわれている。民宿を改造した建物の構造上、手洗いの場所が少ないため消毒で対応している。	
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり			
36 (91)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮するとともに、生活感や季節感など五感に働きかける様々な刺激を採り入れて、居心地よく・能動的に過ごせるような工夫をしている。	共用の場には季節の花が生けてあり、リビングや食堂は明るく、窓から広々とした海や島々が眺められ季節を感じることが出来る。廊下には椅子、リビングにはソファがありくつろげるようになっている。玄関とリビングが同じフロアにあり、リビングで過ごしている利用者はホームに来る様々な業者、訪問者と楽しく会話をしている。	
37 (93)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	使い慣れた家具が持ち込まれており、家族との写真や、家族から送られた写真が飾られていた。花や自分で作った作品や絵、ドライフラワーとなっているからし菜、自分の好きなものを飾っている。一人ひとりの生活空間が作られている。	

自己評価書

【ホームの概要】

事業所名	グループホームみかん畑
所在地	山口県大島郡周防大島町大字西方835-1
電話番号	0820-78-5111
開設年月日	平成18年6月1日

【実施ユニットの概要】 (3月10日現在)

ユニットの名称	グループホームみかん畑					
ユニットの定員	9名					
ユニットの利用者数	9名	男性	名	女性	9名	
	要介護1	1	要介護4	2		
	要介護2		要介護5	2		
	要介護3	4	要支援2			
年齢構成	平均	88歳	最低	73歳	最高	96歳

【自己評価の実施体制】

実施方法	スタッフ全員にミーティングで外部評価の説明を行い、非常勤スタッフも全員に自己評価表を記入してもらった。それを管理者が読みながら、スタッフの意見を取りまとめた。
評価確定日	平成 年 月 日

【サービスの特徴】

入居者それぞれの時間について考え、生活をして頂いている。全員で一斉に何かをするということは考えていない。それぞれの過ごしたい時間で生活して頂いている。職員は入居者の方の時間に合わせて動くようにしている。日中なるべく自由に時間を過ごしていただきたいので夜間まで入浴をしている。職員は「自己覚知」ということを日々の中でするようにしており、職員が自分自身の内面と向き合うことにより、入居者の方に対して関わる事が出来るということで日々の支援を行っている。1年に1度職員と入居者の方との関わりを示す「言葉集」を作成し、支援のあり方を問いながら、入居者の方をみつめる視線について話し合っている。ご家族が遠方な方が多いので、携帯電話のメール機能を活用して連絡をとりあうように心掛けている。

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り 組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>理念に基づく運営</p> <p>1. 理念の共有</p>			
1 (1)	<p>地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。</p>	<p>理念の中に「家族・友人・地域の交流も大切にした入居される方の生活づくり」がある。実際には運営推進会議で地域の方々の意見を聴かせて頂いたり、管理者が地域のケア会議に参加したり、入居されている方それぞれの住んでいた地域との関わりが切れないうような実践を積み重ねている。</p>	<p>それぞれの入居者の方が生活していた地域については関わりをもってきたが、みかん畑のある地域についてはまだまだこれから関わりをもっていかねばならないと考える。</p>
2 (2)	<p>理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	<p>ミーティングや日々の生活の中で、理念や理念に基づいて自分自身のあり様を振り返るような考え方をして取り組んでいる。特に職員が自分自身を振り返ることが出来ることを大切だということを伝えており、「自己覚知のためのシート」を職員に記入してもらっている。</p>	<p>今後もみかん畑スタッフ、運営者も含め、自らの実践のあり方については振り返りつつ、理念を深めていく必要がある。みかん畑の理念は変えてはいけない「人として生きる当たり前の権利」としてこれからも守り続けられなければならない。</p>
3	<p>運営理念の明示 管理者は、職員に対し、事業所の運営理念を明確に示している。</p>	<p>ホーム内に掲示し、ミーティングや日常の生活の中で事あるごとに会話の中でも示している。</p>	<p>今後もさらにスタッフにわかりやすく、また管理者自身も伝えていく努力を惜しまず行っていきたい。</p>
4	<p>運営者や管理者の取り組み 運営者や管理者は、それぞれの権限や責任を踏まえて、サービスの質の向上に向け、職員全員と共に熱意をもって取り組んでいる。</p>	<p>運営者は自らの責任を踏まえて行う努力をしている。管理者は熱意をもって職員とともにみかん畑で日々の皆さんとの生活を通して入居者の方に必要なことについて考えながら取り組んでいる。</p>	<p>運営者も管理者も現場に関わりながら、現場スタッフの考え方を理解し、ともに入居者の方の生活について考えていくことが今後も必要と考える。</p>
5	<p>家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p>	<p>家族については月に1度の通信と、携帯電話でのメールでの連絡などにより、みかん畑の考え方などの伝え合いを行っている。地域に対しては運営推進会議、地域のケア会議で理念を伝えながら、理解していただけるように努めている。</p>	<p>家族については今まで同様、連絡を取っていききたい。また、地域についてはまだまだ足りない部分があるので、今後も地域の理解を深めるようにみかん畑として地域の中に関わっていききたい。</p>
<p>2. 地域との支えあい</p>			
6	<p>隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りたりしてもらえるような日常的な付き合いができるよう努めている。</p>	<p>散歩や回覧板を届けた時、宅配の方や郵便局の方、新聞配達や牛乳配達の方、いろいろな集金の方々の挨拶やおしゃべりを楽しんでいる。時には玄関先でお茶を飲んだりしている。</p>	<p>今後ともさらに地域の方が気軽に立ち寄れるように、努力していきたい。</p>
7 (3)	<p>地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	<p>みかん畑のある船越の地域では、自治会には入会し、地域清掃やお祭りへの参加は行っている。大島の場合、入居される前の生まれ育った地域と入居者の方との関わりが深いため、それぞれの入居者の方が以前、暮らした地域と切れないうための関わりは続けている。</p>	<p>今後も地域に根ざすように努力していく必要がある。地域あての広報が作成できていないので作成していきたい。</p>
8	<p>事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>	<p>地域貢献というような大きなことはまだまだ出来ていない。年に2回の大きな行事(梅雨の運動会と秋の文化祭)について地域の方に声をかけてみかん畑に来ていただいている。お茶をさせていただいたりしながら、楽しんで頂ければという主旨で行っているが、地域貢献というようなことはまだ出来ていない。</p>	<p>まだまだ地域に根ざすところが出来ていないので、今後、地域の方々の交流のもとに、そのようなことが出来たらと思う。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
9	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	昨年もそうであったが、自己評価を通して「わかっていない自分」に気づいてもらうということがあった。昨年指摘された書類などについては点検するという意味もこめて確認できた。	個々の職員からあがってきている自己評価がその時のその場だけで終わってしまっているのかという疑問を感じている。自己評価を職員に求めるのであれば、それを活かすようなことをみかん畑内だけでなく、評価機関にも協力いただいて行っていきたい。
10 (5)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かしている。	評価については運営推進会議でお伝えし、また会議で評価に際してホームに対しての意見をもらいながら、改善に役立てる努力をしている。	まだまだ手探りでやっている部分もあり、運営推進委員のメンバーが途中から増えたが、それでも欠席が重なり会議が出来ないという状況もある。今後、内容の検討が必要だと考える。
11 (6)	市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。	ホームに市町担当者が度々訪れることはないが、管理者は「東和ケア会議」に参加し、市町担当者や地域事業所との交流をもち、ホームに対しての理解を促すために、ホームでのことや、評価についてなど話をしている。	書類の提出や、運営上、役場との関係がある部分では何かと関わりをもっているが、今後もさらに関わりをもっていきたいと考える。
12	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用するよう支援している。	管理者については制度の勉強や研修は受けているが、職員に対しての勉強会などは行っておらず、実際のことをあまり知らない職員が多い。現在、ホームには制度を利用するような方がいないが、今後必要な方がいれば活用していきたい。	ミーティングでは日々の入居者のことのみにも留まり、スタッフ全体に対して、制度やみかん畑全体のことについて話す機会が今まであまりなかった。今後は必要となってくるので、勉強会などを開きたい。
13	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	実際の事例をもとに、ミーティングで過去に管理者から職員に伝えたことはある。(どのような場面が虐待にあたるかということ) 日常、職員同士はお互いに注意を払っている。	どのような場面が虐待にあたるのかということを一先、しっかりと認識する必要があると考えている。日々の業務の中で見直しをしていく必要があると考えている。
4. 理念を実践するための体制			
14	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約したりする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	家族の方とは十分な話し合いをもって契約をしたり、解約をしたりしている。場合によっては家族数名をお呼びして話し合いをもったりしてきた。	今後も入居者ご本人、ご家族には丁寧な説明が必要と考えている。
15	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	入居者の方に関しては常にそれを聴けるような関係づくりをするよう努力している。入居者の方の状態がそれぞれに違うため、一同に会して同じ場所で会議のように意見を言う場を設けたりはしていない。	今後も本音を語れる関係づくりをしていきたいと考える。そのためには職員の自己覚知がさらに必要となってくる。「この人なら何でも話したい」と思えるような雰囲気職員が意識的にもつことが求められる。
16 (7)	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	家族へは1ヶ月に1度の通信の送付と、家族によってその都度管理者の携帯電話のメール機能を使い、連絡をとりあっている。遠方の家族が多いため、メールでの連絡は夜間、日中を問わずに行っており、これにより家族との関係づくりもしている。	今後も家族と同じように連絡を取り合っていければと考えている。特に島は遠方の家族とのメール連絡がとても役に立っている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
17	<p>情報開示要求への対応 利用者及び家族等からの情報開示の要求に応じている(開示情報の整理、開示の実務等)。</p>		<p>具体的にどのような書類をということを契約書などで記載をしていないため、今後は重要事項説明書などで明示したい。</p>
18 (8)	<p>運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させているとともに、相談や苦情を受け付ける窓口及び職員、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。</p>		<p>苦情や意見などがあれば、今後も第三者委員、あるいは直接話していただけるように関係づくりをしていきたい。</p>
19	<p>運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>		<p>今後もスタッフが話し合える関係づくりをしていきたい。</p>
20 (9)	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、夜間を含め必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。</p>		<p>今後も入居者の方の身体的な状況、精神的な状況の変化は考えられるので、状況を見ながら勤務の変更をしていく。</p>
21 (10)	<p>職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。</p>		<p>スタッフと入居者の方との関係は小さな場所であるがゆえに密接になっており、居なくなることによるダメージなどは今後もさらに考慮していく必要がある。</p>
5. 人材の育成と支援			
22 (11)	<p>職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>		<p>管理者が考えた小さな研修は行ってきたが、今後はさらに、スタッフのもつ資質に合わせて研修を行っていく必要があると考える。</p>
23	<p>職員配置への取り組み 多様な資質(年代、性別、経験等)をもった職員を配置することにより、多様な利用者の暮らしに対応している。</p>		<p>今のような年齢構成、資質の違うスタッフがいることは今後も大切であると考える。</p>
24 (12)	<p>同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>		<p>自分たちのグループホームだけしか見ていないと気づかないことや忘れてしまうことがあるため、このような事業者間の交流はスタッフの気づきを促すためにも必要と考える。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
25	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	休憩場所はあるが、活用されてはいない。コーヒーの機械は入れてくれた。環境というと職場だけでなく、働く環境として希望休みを入れやすくしたりということが今は行われている。		スタッフのストレスケアは絶対的に必要と考える。「生活」を支援するグループホームで、スタッフが自分の生活を楽しめなければ、入居者の方に生活支援をすることは出来ない。
26	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。	運営者が現場にいることが少ないため、把握することが難しい状況にあり、管理者が運営者に何かあれば伝えるようにしてきた。		最近、運営者も現場に関わるが増えてきており、関係性をもちながら今後にかかしていけたらと考える。
27	職員の業務に対する適切な評価 運営者は、高い専門性やリスクを要求される管理者や職員の業務に対し、処遇等における適切な評価に努めている。	運営者が現場にいることが少ないため、把握することが難しい状況にあり、管理者から何かあれば運営者に伝えるようにしてきた。		同上
安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
28	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。	相談の多くは担当ケアマネやご家族からであり、その後、ご本人にお会いしている。(ご自宅におられる場合はご自宅、施設、病院におられる場合は施設病院へ伺い)ご本人のお話を必ず聴かせていただくようにしている。可能であれば、みかん畑に来て頂いて話を聴かせていただいている。		今後も同じように相談があった場合、対応していきたい。
29	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。	ご家族には実際にみかん畑に来て頂いて、今までのことや、今、困っておられることなどかなり時間をかけてお話をうかがわせて頂いている。		今後もご家族からお話を聴いていきたいと考えている。
30	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	グループホームの対応であるかどうかも含めて、相談を受ける中で、今、必要としておられるサービスや、今、必要とされている対応を心掛けている。		今後も同様に取り組んでいきたい。
31 (13)	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	入居前にみかん畑に来ていただいたり、体験入居のような形をとったり、その方に合わせて対応させていただいている。ご本人が気に入ってくださるかどうかが一番であるので、ご本人の様子を伺いながら事前に過ごさせて頂いている。		今後も同様に取り組んでいきたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
32 (14)	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	生け花や料理の下ごしらえなど、入居者の方から教えていただくことがあり、また日々の中で会話と一緒に過ごすことにより気づかせていただくことがある。		今後もさらに入居者の方との関係を築けるようにしていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
33	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。		みかん畑からもご家族には入居者の方の状況などをその都度報告して今後も一緒に考えていけるような関係作りをしていきたい。
34	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。		今後もご家族と連絡をとりながら、入居者ご本人との関係について支援していきたい。
35	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。		地域との関係が切れないような関わりはみかん畑がはじまってから心掛けてきたことであり、今後も継続していきたい。
36	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。		今後も継続して行っていきたい。
37	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。		利用上の契約開始、終了ということではなく、関係の継続に今後も努めていきたい。
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握			
38 (15)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。		今後も聴けるような関わりを継続していきたい。
39	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。		今後も日々の中から、入居者についての理解を深めていきたいと考える。
40	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。		メール機能を生かして情報を共有したり、状況の把握を今後もしていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
41 (16)	チームで作る利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	介護計画は担当のスタッフが作成するが、担当スタッフが作成する時には計画作成担当者やスタッフそれぞれから意見をミーティングで出し合うようにしており、また家族からの意見や入居者の方の様子や言葉から作成をしている。	今後も介護計画作成についてさらにご本人にとって大切なことをご本人、ご家族一緒になって考えていきたい。
42 (17)	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	入居者の身体的な状況や精神的な状況が変わった時には介護計画を期間の途中であっても変更するようにしている。特に入院などで様子の変化した場合には変更し、作成している。	現在も行っているが、状況の変化がある方については特に期間の途中であっても変更の計画を作成するようにしている。
43	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	ケア日誌にすべて記録し、その中から介護計画に生かすようにしている。また、個別の食事量などの記録、水分量などの記録は毎日つけている。	今後も同様に取り組んでいきたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
44 (18)	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	多機能的なことを行っていないので、この項目に当てはまらないかもしれないが、入居前の相談で、みかん畑に往診に来られている先生がある時に、健康相談というような形で相談に来られる入居待ちの方がおられた。	多機能にする予定が今のところないのだが、今後多機能にするようなことがあれば、取り組んでいきたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
45	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	地域の民生委員との協力は行うように努力している。また、警察については地域の駐在さんがみかん畑を訪ねてくれたり、消防に関しては運営推進会議の委員になってもらい、理解していただけるように関係をもっている。	今後も同様に取り組んでいきたい。
46	事業所の地域への開放 事業所の機能を、利用者のケアに配慮しつつ地域に開放している(認知症の理解や関わり方についての相談対応・教室の開催、家族・ボランティア等の見学・研修の受け入れ等)。	ボランティアなどの見学、研修はおこなっているものの、事業所の機能を地域に開放するまでには至っていない。	見学研修のみでなく、何かしら地域に還元できるような取組みをしていきたい。
47	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他の介護支援専門員やサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	地域の介護支援専門員と連携をもち、必要なりハビリサービスなどを受けてたり、以前にはインターネットの見守りサービスを利用している入居者がおり、地域の介護支援専門員から紹介してもらい、利用していた。	今後も必要であれば、検討し、取り組んでいきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。		必要であれば、相談にのってもらいながらサービスの利用をしていきたい。
49 (19)	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。		今後も同様に取り組んでいきたい。
50	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。		今後も同様に取り組んでいきたい。
51	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員(母体施設の看護師等)あるいは地域の看護職(かかりつけ医の看護職、保健センターの保険師等)と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。		看護師との連携がなかなか出来難い環境ではあるが、今後、相談できる看護職員との関わりがもてるよう努力していきたい。
52	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。		今後も同様に取り組んでいきたい。
53 (20)	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。		今後はご家族それぞれとさらにお話をすすめていかなければならない状況にある。
54	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。		入居者の方、またご家族によって状況は様々だが今後もご本人、ご家族と相談しながら、担当医に相談していきたい。
55	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている		退居に際して、十分なことが出来ているかという、やはり体調低下などで病院へ退居される場合、ダメージは受けられているだろうと思われる、自分たちの力のなさを感じている。今後も、出来るだけ話し合い、ご本人の気持ちを考えて関わっていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重</p>			
56 (21)	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。	言葉のかけ方については「スタッフマニュアル」に記載し、毎日の生活の中でお互いに気をつけながら行っている。個人情報についても配慮している。	今後さらに職員の言葉のかけ方、プライバシーについて考えながら取り組んでいきたい。
57	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	ご本人の思いをそれぞれの方に合わせて聴くように努力し、なるべく選択してもらえるように配慮している。	今後も同様に取り組んでいきたい。
58	“できる力”を大切にされた家事への支援 家事(調理、配膳、掃除、洗濯、持ち物の整理や補充、日用品や好みの物などの買い物等)は、利用者の“できる力”を大切にしながら支援している。	出来る力を大切にされた支援に心掛けているものの、入居者の方すべてに対しては出来ているとは言えない。	出来るけれども職員がしてしまったりということもあり、また、出来るけれども日々の入居者の様子もあり、今後も様子をみながら取り組んでいきたい。
59 (22)	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	生活時間自体がそれぞれに合わせた時間になっていて、その日、その方が過ごしたいように過ごしてもらえるような関わりはしているものの、すべての方に毎日出来ているとは言えない。	日々、頭に置きながら、取り組んでいるものの、すべての方に関して必ずしも満足のいく生活になっているとは言いがたい。ご本人にとって何が「その人らしい」のかを考えながら今後も取り組んでいきたい。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
60	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	美容室についてはご本人の行きつけの美容室へお連れするようにしている。また、お化粧品などを希望される方については希望に添うように努力をしている。	今後も同様に取り組んでいきたい。
61 (23)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	調理の下ごしらえなどは入居者と一緒に行う時もあり、片付けもしてくれる方もいるが、すべての方と一緒に行えてはいない。	日によって違うので、出来る時と出来ない時があるが、出来る時には一緒に行っている。
62	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて、日常的に楽しめるよう支援している。	たばこお酒については現在のところ、お聞きしてはいるものの、好まれる方があまりいない。その他のおやつや飲み物などについてはご本人の希望をお聞きしながら楽しめるようにしている。	お好みのものを食べたり、飲んだりしていただけるよう、今後もご本人に聴きながら支援していきたい。
63	気持ちのよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	排泄についてはトイレ誘導をそれぞれの時間で行っており、オムツについては夜間必要な方だけ使用している。(紙おむつ1名、紙パンツ2名)	今後も同様に取り組んでいきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
64 (24)	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	入浴は入りたい時間にいつでも入ることが出来る。夜間も8時近くまで入浴が出来る。その人の様子に合わせて状況に合わせて入ることが出来る。		今後も同様に取り組んでいきたい。
65	安眠休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり、眠れるよう支援している。	就寝の介助についてはそれぞれにまた、その日によって異なるため、状況を見ながら行っている。眠れない原因についてはその都度考えている。薬を使用している方については、タイミングや様子を見ながら飲んで頂く場合がある。		今後も同様に取り組んでいきたい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
66 (25)	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場面づくり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	お一人おひとりの好きなこと、趣味、生活歴などを考えた生活支援を行っている。編物、料理、絵画、読書、生け花、庭木の手入れ、畑仕事など。		まだまだ充分に出来ていない部分もあると思われる。今後もご本人の気持ちを考えながら支援していきたい。
67	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や状態に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	ご本人がお金を持つことを希望されている場合、ご家族と話し合い、もって頂いている。持つことを希望されていても、ご家族によっては持たない方がいいと判断される場合もある。		今後もご本人、ご家族と相談しながら取り組んでいきたい。
68 (26)	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	買い物など大島から離れる場合は、状況が許せば出来る状態ではあるが、毎日難しい。散歩などは日常的に行っている。		職員の勤務状況や天候もあるので、いつもご希望に沿ってはいないが、出来るだけ取り組んでいきたい。
69	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	行けない場所についてはスタッフと入居者の方で計画して外出を行う場合がある。個別に行きたい場所が違うので、それぞれに対応することが多い。ご家族は遠方であるので、一緒に外出ということは出来ない。		今後も同様に取り組んでいきたい。
70	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	手紙はご本人が書けない場合はスタッフが書いている。また電話についてはかけられない場合はスタッフがかけてご本人が話せるように支援している。なるべく家族とご本人のつながりが持てるように支援している。		今後も同様に取り組んでいきたい。
71	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	遠方のご家族であっても来られたら入居者の方とゆっくりと過ごせるように、時間と場所を提供している。友人、知人の方についても気軽に訪問できるような雰囲気づくりにつとめている。		今後も同様に取り組んでいきたい。
72	家族の付き添いへの支援 利用者や家族が家族の付き添いを希望したときは、居室への宿泊も含め適切に対応している。	居室への宿泊は実際に行っている。当日突然来られても対応している。		今後も同様に取り組んでいきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
73	家族が参加しやすい行事の実践 年間の行事計画の中に、家族が参加しやすい行事を取り入れ、家族の参加を呼びかけている。	みかん畑では大きな行事はあまり行わないが(その日その日で何かしら行っているもの)家族が参加出来るように連絡している行事は6月の「運動会」と11月の「文化祭」で、遠方から来ていただいている家族の方もいる。	今後も同様に取り組んでいきたい。
(4)安心と安全を支える支援			
74 (27)	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び言葉や薬による拘束(スピーチロックやドラッグロック)を正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。	抑制や拘束についてはミーティングなどでもその都度話し合い、お互いに理解を深めてきた。拘束ではないかと思われる事例についても話し合いながらどのようにしていったらいいかを常に考えている状況にある。	今後も日々の生活の中から抑制、拘束になることなどを考えて常に考えていきたい。
75 (28)	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	グループホーム立ち上げ時に鍵をかけないケアについては話し合われており、日中も居室もかぎをかけていない。	今後も同様に取り組んでいきたい。
76	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	ホームの建物がハード的にはすべてを見渡せるような建物ではないが、入居者の方の様子や所在については常に把握するようにし、安全には配慮している。	今後も同様に取り組んでいきたい。
77	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	食べ物でないものを口にされる方についてはその都度気をつけて確認をしている。すべてを鍵つきの棚にしまってしまうのではなく、生活感も大切にしながら、その方に合わせてその都度周囲の安全には気をつけるように配慮している。	今後も同様に取り組んでいきたい。
78 (29)	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	事故防止については入居者の方の様子により、スタッフそれぞれが考え、試行錯誤しながら行っている。事故を減らすことはもちろん大切ではあるが、ご本人にとって一番良い方法が何であるかということも考えることも大切なことであると思う。	今後もご本人にとって一番良い方法を考えながら行っていきたい。
79 (30)	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	訓練は定期的には行ってはいない。急変時の訓練は1年に1度程度行っているが、実際に起きた時の対応について、今後さらに考えて行っていく必要がある。	訓練がまだまだ足りないと感じている。今後はさらに訓練を夜間、日中、急変時など行っていきたい。
80	再発防止への取り組み 緊急事態が発生した場合や、発生の可能性が見られた時には、事故報告書や”ヒヤリはっと報告書”等をまとめるとともに、発生防止のための改善策を講じている。	事故報告書やヒヤリはっと報告書をまとめるなどしている。その後についても改善策を試行錯誤しながら考えてきている。	今後も同様に取り組んでいきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
81 (31)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	災害などについて、特に大島は台風の時の対応があり、台風情報を見ながら、母体の民宿への避難を行っている。地域の方々からも運営推進会議で話題になったことがある。		地域の方との関わりがまだあまりないため、運営推進会議などを生かして行っていきたい。
82	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	それぞれの方のリスクについては比較的风险の高い状況にある家族の方とは連絡をとりながら対応策を一緒に考えている。		今後もご家族と話し合いながら、一緒に考えていきたい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
83	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	スタッフそれぞれが情報を共有しながら行っている。その日のバイタルチェックからももちろんだが、それ以外にも日頃と様子の違うことなどをお互いスタッフ同士が伝え合いながら対応している。		今後も同様に取り組んでいきたい。
84 (32)	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めているとともに、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。	薬剤のシート作成をしており、スタッフは入居者がどのような薬をどれくらい飲んでいるかの把握はしている。少しでも様子が変わったり、薬の内容に変化があった時にはスタッフ同士が様子の把握をするように努めている。		今後も同様に取り組んでいきたい。
85	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。	食事の内容で便秘に気をつけるような工夫(ヨーグルトや繊維質のものを摂取出来るように献立を考える)や薬を使用する場合もいづいどんな状態で排便があったのかを考えながら薬の調整を病院にも話しながら行っている。		今後も同様に取り組んでいきたい。
86 (33)	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしているとともに、歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援している。	長年の習慣として朝だけ夜だけの歯磨きの入居者の方はその習慣で行っている。なるべく歯磨きをしていただけるように支援している。		なるべく口腔ケアをしていただけるように支援を行っていきたい。
87 (34)	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事量については毎日チェックをしている。ご本人の好きな飲み物や食べ物についても配慮して、それを献立のメニューに取り込めるようにしている。		今後も同様に取り組んでいきたい。
88 (35)	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。	マニュアルは作成してある。昨年、インフルエンザもノロウイルスもあったので、今年は事前に手洗い消毒に気をつけていた。		今後も同様に取り組んでいきたい。
89	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	買い物については2日に1度程度行っている。調理道具については2度洗い(手洗い、食洗器)している。		今後も同様に取り組んでいきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり			
90	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関周りは鍵はついておらず、玄関に入った正面がリビングになっていて、外部から来られた方にくつろいで頂いたり、一緒にお茶を飲んでいただいたりしている。	雑然としている時もあり、常に気持ちのよい玄関周りにしていきたいと考えている。
91 (36)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮するとともに、生活感や季節感など五感に働きかける様々な刺激を採り入れて、居心地よく・能動的に過ごせるような工夫をしている。	共用空間には花を置いたり、窓からは太陽の光が沢山降り注ぐ明るいリビング、食堂となっている。音に関しても特に不快な音はなく、食事を作る音、匂いなど生活の中にある音や感覚がそのままある。音楽についてはそれぞれの好みもあるので、好きな方が居る時には音楽を流したりしている。	今後も同様に取り組んでいきたい。
92	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	入居者の方の過ごす場所がリビング、食堂、居室、庭など、それぞれにあり、それぞれに過ごされている。	それぞれの入居者の方が過ごしやすいように椅子を置いたり、ひざ掛けを置いたり好きな
93 (37)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ご本人の部屋はその人の生活空間として絵や写真、花など、好きなものを飾って頂いている。	ご本人が出来る部分はしていただきながら、ご家族とも一緒に部屋作りをしていきたい。
94	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	温度調節はその方の状況によってこまめに調節している。臭いがある場合は換気をして、空気の入れ替えを行っている。	今後も同様に取り組んでいきたい。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
95	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送ることができるように工夫している。	手すりなどは建物内にあまり多くはない。椅子はいろいろな高さの椅子がある。2回へ上がるための椅子式の移動器具が備え付けられている。車椅子、手引き、シルバーカー、杖、などその日のその人に合わせて使い分け、支援している。	今後、さらに手すりなどが必要な場所が出てくると思われる。(入居者の方の状況によって)様子をみながら取り組んでいきたい。
96	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	表示はトイレや浴室はある。また、居室についてはある部屋とない部屋がある。入居者の方の手作りカレンダーがある。	入居者の方によってはガラス窓にぶつかったりということがあり、ガラス窓対策で以前、写真を貼ったりしていたが、他の入居者の方のクレームから止めたりなど悩みながら行っている部分がある。引き続き考えながら行っていきたい。
97	建物の外周リや空間の活用 建物の外周リやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	小さいながら、花壇があり、それを入居者の方は楽しんでいる。玄関前が砂利であり、これが車椅子で通る時に不便であり、それを緩和するためにスタッフ手作りの道をセメントで作った。	外回りについてはまだ工夫できる点などもあると思われる。花壇や畑づくりは今後も行っていきたい。

項目		取り組みの成果 (該当する箇所を 印で囲むこと)	
. サービスの成果に関する項目			
98	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	ほぼ全ての利用者の 利用者の1 / 3 くらいの	<input checked="" type="checkbox"/> 利用者の2 / 3 くらいの <input type="checkbox"/> ほとんど掴んでいない
99	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。	<input checked="" type="checkbox"/> 毎日ある <input type="checkbox"/> たまにある	<input type="checkbox"/> 数日に1回程度ある <input type="checkbox"/> ほとんどない
100	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	<input checked="" type="checkbox"/> 利用者の2 / 3 くらいが <input type="checkbox"/> ほとんどいない
101	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	<input checked="" type="checkbox"/> 利用者の2 / 3 くらいが <input type="checkbox"/> ほとんどいない
102	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	<input checked="" type="checkbox"/> 利用者の2 / 3 くらいが <input type="checkbox"/> ほとんどいない
103	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	<input checked="" type="checkbox"/> 利用者の2 / 3 くらいが <input type="checkbox"/> ほとんどいない
104	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	<input checked="" type="checkbox"/> 利用者の2 / 3 くらいが <input type="checkbox"/> ほとんどいない
105	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。	ほぼ全ての家族等と 家族の1 / 3 くらいと	<input checked="" type="checkbox"/> 家族の2 / 3 くらいと <input type="checkbox"/> ほとんどできていない
106	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。	ほぼ毎日のように たまに	<input checked="" type="checkbox"/> 数日に1回程度 <input type="checkbox"/> ほとんどない
107	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	大いに増えている あまり増えていない	<input checked="" type="checkbox"/> 少しずつ増えている <input type="checkbox"/> 全くいない
108	職員は、生き活きと働けている。	ほぼ全ての職員が 職員の1 / 3 くらいが	<input checked="" type="checkbox"/> 職員の2 / 3 くらいが <input type="checkbox"/> ほとんどいない
109	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	<input checked="" type="checkbox"/> 利用者の2 / 3 くらいが <input type="checkbox"/> ほとんどいない
110	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	ほぼ全ての家族等が 家族等の1 / 3 くらいが	<input checked="" type="checkbox"/> 家族等の2 / 3 くらいが <input type="checkbox"/> ほとんどできていない